

2023年度 施策マネジメントシート【2022年度実績評価】

作成: 2023年 6月 5日

施策番号 1-2-2	施策名 地域資源を活用した観光の振興	基本目標 農業と連携した活力ある商工業と観光物産の振興	
	主管課 魅力創造課	課長名 西田昌樹	内線 412
施策関係課 生涯学習課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
農業や景観、食など本町の地域資源を活かした観光による魅力づくりを行うため、本町のブランド力の戦略的な活用を図りながら、観光誘客の促進を目指します。		町外観光客	・観光客の滞在時間と日数を増大させ、観光消費の拡大を図る ・観光資源が認知され、新規観光客とりビーターを獲得する				芽室町が道内・国内・海外に発信される 交流人口の増で消費の拡大につながる		
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
① 芽室町外からの観光入込客数	十勝総合振興局まとめ	人/年	198,800	171,600	150,900	160,800	180,000	209,000	
② 新嵐山スカイパーク利用者数	魅力創造課(旧商工観光課)調べ	人/年	488,100	362,389	281,257	273,520	304,414	513,000	
③									
④									
成果指標 設定の考え方	①段階的に209,000人／年を目指す。②年1%増加を目標とし、30年度から34年度までの5年間につき5%増で設定								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	189,718	149,203	181,664	181,404	273,367
人工数(業務量)	1.6208	2.2427	2.1407	2.2074	2.0541

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	コロナによる外出自粓モードから、ワクチンモードへの社会変容により、サービス業界の対応及び来客者の対応により不安が軽減したことにより、観光行動の回復が見られたため。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	いずれも目標値には達してはいないが、コロナ禍においても来たるコロナ明けを見据えた対応・準備を怠らず、遂行してきたこと、これから的是非モードにおいて、その蓄積してきた知見・エネルギーが発散・実践され、回復しつつある現状値からみて、おおむね達成できたと考える。

(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町観光・特産品普及事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	新嵐山スカイパーク運営支援事業
	ふるさと納税特典贈呈事業		
	芽室町観光物産協会運営支援事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)			観光振興においてコロナによる影響は世界的に大きな影響を与えた。その中においても、芽室町における観光振興策の歩みを止めることなく、その時点できることを試行、実践してきたことは、新嵐山における新たなターゲット層の集客や掘り起こし、観光特産品普及事業ではサイクル事業の継続、野遊び事業の新規実施、ふるさと納税特典贈呈事業では巣ごもりニーズへの対応とその継続的寄附者層の獲得など、コロナ禍における新たなチャンスを見逃すことなく実践できたことは、来るべき今後の観光振興事業のスタートダッシュが可能、今後のさらなる向上に向かえると考える。

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	想定していなかったコロナに直面し、一時期は数値目標が激減したが、その中においても歩みを止めず、試行錯誤を繰り返した結果、現状維持とまではいかないが、それに相当すると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	

A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した
E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	『施策を取り巻く状況』 ・コロナの5類移行に伴い、国内・海外の動きの加速、回復が想定される。 ・コロナを経験したことによる、新たな観光の形へのニーズと、受け入れ側のシフト変更が望まれる。 ・ウィズコロナを迎える観光・物産の振興においては、ブランド力の強さ、差別化がより一層望まれる。 『今後の予測』 ・観光振興においては、ウィズコロナにおいて国内、さらには海外の一定のニーズが期待できる。 ・ふるさと納税は今後も需要が見込めるから、体験型など新たな展開ニーズが見込まれる。
	・新嵐山スカイパーク改革に関する関係機関、関係者への説明及び意見聞き取りの徹底 →議会・町広報誌を通じた定期的な説明と、ホットボイスに対する真摯な対応、町民無作為抽出による自分ごと化会議の実施による意見の聞き取りと、その反映を行っている。 ・ふるさと納税寄附額の向上への新たな取り組み →庁内関係課、観光物産協会、関係事業者、町外事業者との目的・目標の共有による魅力的な返礼品数の増を図った。 ・情報発信の工夫 →SNSなどデジタル媒体を活用した効果的な情報発信の研鑽。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

・新嵐山の運営の方針・経営可能な運営の在り方、効果的・効率的な施設整備については、令和5年度に改訂する新嵐山活用計画において明確にし、それを踏まえた運営事業者の公募を実施していく。 ・観光・物産の振興に関する芽室町のビジョンがないことから、ビジョン策定に取り組むとともに、新たな観光コンテンツとして日高山脈国立公園化を見据え、それらを絡めたビジョンを策定していく。併せて、観光物産振興の核となるよう、芽室町観光物産協会の組織強化、自立的運営に支援を行い、芽室町の観光と関連産業の振興を図る。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標は未達成であるが、新嵐山に関して様々な取組を行ったことから「維持した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	スキー場の利用は野外のためコロナの影響をあまり受けておらず、利用者数減少はコロナだけの理由ではないと思う。町民が使いやすい新嵐山スカイパークになってほしい。「前進した」とは言えず「維持した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	・温泉施設が欲しい。 ・観光宿舎よりも学生向けに合宿部屋など作ってもいいのではないか。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					